「授業におけるＩＣＴの効果的な活用方法と配慮事項」（2022）をご覧になる方、ご利用いただく方へ

本校は、山梨県教育委員会から「令和３・４年度指定　特別支援学校におけるＩＣＴ教育推進事業に係る『ＩＣＴを活用した授業づくり実践研究事業』」（遠隔教育研究）の指定を受けました。

指定研究１年目の到達点（「本校の遠隔教育における成果と課題」という一覧表の作成）を踏まえて、指定研究２年目は『授業』という視点に力点を置いて「授業におけるＩＣＴの効果的な活用方法と配慮事項」について整理して『共通の視点』として確認しました。『共通の視点』を意識しての授業実践を重ねていき、新規項目を加えたり、区分けしたりしていった結果、最終的な「授業におけるＩＣＴの効果的な活用方法と配慮事項」一覧表を作成することができました。

掲載した「経過」も併せてお読みいただき、２か年研究の成果のひとつでもある一覧表をご利用いただければ幸いです。

令和５年３月

授業におけるＩＣＴの効果的な活用方法と配慮事項（2022）

１　経過

（１）　令和４年６月１６日（木）第２回学部研究会

「昨年度、整理した『遠隔教育』の課題点と成果をもとに、授業におけるＩＣＴの効果的な活用方法と注意事項などをみんなで検討し、病弱をかかえる子どもにとってよりよい授業のあり方をさぐる」という、４月の全体研究会で了承された研究の方法に基づいて、ＫＪ法を用いて一人一人が付箋に記した内容をみんなで項目に沿って整理していった。貼り付けた付箋を見ながら意見交換や情報交換を重ね、分類・整理した。研究会当日の流れと確認した作業内容・方法、留意点は以下のとおりである。

①　流れと作業の確認

ア　配布用紙【ＩＣＴの効果的な活用　青シール】に横書きでの書き込み

イ　カテゴリーごとに貼り付け（仮どめ）

ウ　配布用紙【ＩＣＴの活用のおける注意事項　赤シール】に横書きでの書き込み

エ　カテゴリーごとに貼り付け（仮どめ）

オ　配布用紙【デジタル教科書使用のメリットとデメリット　緑シール】に横書きでの書き込み

カ　カテゴリーごとに貼り付け（仮どめ）

キ　貼り付け位置の検討［新規カテゴリーの創出、位置の変更、関連性などの矢印➡化］

②　ＫＪ法での留意点

ＫＪ法に関連して・・・　　アイデアの収束技法といわれる

○情報同士の関係性を視覚化する　　○本質的な課題や解決策を発見する

○アイデアを創出する

◎４つの過程

・カードの記入（単位化）➡１枚に１つずつ記入、具体的かつわかりやすく記入

・グルーピング（グループ化）➡タイトルはグループ全体の意味を言い表したものにする

ランダムに貼り付ける　　小グループから大グループへ

思い込みや先入観を排除

・並び替え（図解化）➡グループの位置関係を考える　線や矢印で結び、それがどういう関係を表すのかを線の上に記入【関係あり、原因、結果、相関、類似、反対】

・言葉にする（文章化）

◎４つのルール　　①批判しない　　②自由に発言する　　③質よりも量を重視する

④アイデア同士を結合する

（２）　令和４年７月１４日（木）第３回学部研究会

６月１６日（木）の第２回学部研究会で、みんなで書き込み、貼り付けたカードを研究部が預かり、研究部でタイトルをつけて再整理した一覧表（原案）を作成した。この日の学部研究会では原案を提案し、みんなで検討し、了承された。

この原案は、２学期以降の「一人一実践」を考え、まとめていく際の「共通の視点」となった。

（３）　令和４年８月～令和５年１月

７月の学部研究会で了承された「授業におけるＩＣＴの効果的な活用方法と配慮事項」を踏まえての「一人一実践」がスタートして、それぞれの授業実践の中から導き出された授業におけるＩＣＴの『効果的な活用方法』と『配慮事項』を一覧表の中に加えていった。そして、分類・整理した一覧表をみんなの目で最終的に確認して完成させた。

２　「ＩＣＴの効果的な活用方法と配慮事項」一覧表

１　病弱を抱える本校の児童生徒に対してＩＣＴを活用する授業づくりを行ううえで最も重要なこと

◎　児童生徒の実態や発達段階や特性、授業のねらいや指導（学習）内容を踏まえて、ＩＣＴの活用が必要かどうかを検討する
◎　ＩＣＴは児童生徒の理解を促す・深めるためのツールのひとつであることを常に意識する

２　病弱を抱える本校の児童生徒に対してＩＣＴを活用した授業を振り返って、効果的だったこと、効果的だと感じられたこと

１　離れた場所からの『授業への参加』や『集団参加』

- 学びを止めずに、連続性のある学びが可能となる
- 病気が理由で学習できない子どもをつくらない
- 自宅療養に有効である
- 入院中のストレス軽減、学習の遅れへの不安解消につながる

２　ＩＣＴの諸機能による学びの多様化

- 『オンライン』機能により学習に参加できる（家庭でも病室でも）
  『共同作業』機能によりリアルタイムで作業や話し合い活動をスムーズに行うことができる
- 『アンケート』機能によりタイムリーに視覚を通して確認できる　流れを確認できる　さまざまな考え方があることを確認できる　『他』の考えを知ることで更に『自分』の考えを深められる【⇒主体的・対話的で深い学び】
- 検討の場、議論の場、情報交換の場になる

３　心理的な負担の軽減

- 対人緊張を和らげることができる
- 安心して意思表示しやすい　表現の保障
- 同一方向を向いて見ているので、周囲が自分に注目することがなく、気楽に参加できる
- 課題やアンケートを容易に送信・配付しやすい
- 児童生徒の発言を引き出しやすい　意思を確認しやすい

４　実体験できない状況へのアプローチ

・　疑似体験できる
・　視覚化できる
・　（視聴による）実感を伴った理解ができる
・　イメージしやすい

５　イメージ化による理解の深まり

・　目に見えない現象などもイメージして理解しやすい
・　新たな考え方に気づきやすい
・　課題の解決方法に気づきやすい
・　技術の習得につながりやすい

６　動画の視聴やデジタル教科書等の活用

・　調べ学習が短時間でできる
・　正確な発音や音声を聞くことができる
・　『拡大』機能により大きく表示され、見やすくなる
・　（教師にとって）板書の作業や板書にかかる時間が減るので、減った時間を他の活動に回すことができる

７　『書くこと』へのアプローチ

・　（書字への苦手感をもつ児童生徒にとって）書くことへの負担感を減らすことができる
・　書くことへの負担減により、児童生徒が考えたり、教師の説明をじっくり聞いたりする時間の確保につながる

８　前籍校とのつながり

・　（遠隔授業の実施により）前籍校の友達と同じ学習をしているという思いが『支え』になり、背中を後押ししてくれる
・　前籍校に復帰したときに、スムーズに移行を図ることができる

９　マインクラフトの活用

・　算数科で Minecraft Education を取り扱うことにより、算数科への親しみ、興味が増す　概念の定着、本質的な理解につながる
・　操作や作業を通して、活動の楽しさや達成感を抱く

３　病弱を抱える本校の児童生徒に対してＩＣＴを活用した授業を振り返って、配慮したこと、配慮したほうがよいと思ったこと

＜授業実施に向けて＞

１　児童生徒との関係性づくり【⇒緊張を下げる】

２　実態把握

・　ＩＣＴ活用の経験値と習熟度　キーボードを押す苦手感の有無
・　心理的な側面【⇒対面ではなく画面越しでのやり取りに向けての心理的な特性を把握】
・　空間認知

３　教材研究

・　教材教具としてＩＣＴの何を使うか
・　どのような場面で、どのＩＣＴを使えば有効的に活用できるか
・　使用するＩＣＴに関して何ができて、何ができないのか
・　授業で使うデジタル教科書や動画等はどんな内容か事前に確認しておく
・　リハーサルを実施する

＜授業の際に＞

４　見え方と見やすさ

・　どのように見えているか（画面の見え方）の確認
・　見え方（画面の明るさ、まぶしさ、色のコントラスト、など）
・　見えやすさ（字体、文字の大きさと色、文字の背景、テレビ画面の大きさ、テレビの高さ、テレビの位置、など）

５　遠隔授業での児童生徒の様子、表情、手元が分かりづらいこと

・　表情を読み取ること、表情の意味を探ることが難しい
・　病室ベッドサイドテーブルの様子を把握することが難しい
・　画面越しによる授業だけだと、児童生徒の様子や理解度、つまずきを把握することが難しい
・　姿勢の崩れ、首こりや肩こりなどが起きていないかを把握することが難しい
・　前かがみ姿勢による視力への影響が出ていないかを把握することが難しい
・　自宅を含めた一日の『スクリーン・タイム』の把握が難しい

６　情報量の多さ

・　混乱や複雑性が生じる　集中力が減る

７　五感を使った活動や刺激が得られないこと

・　実感を伴っての理解や学習の定着が難しい
・　声に出して読むことも大切である
・　ライブ感を得られない

８　『書く』機会の減少

・　生徒の実態や学習グループに応じた『書く量』の微調整
・　高校入学試験に向けて書く機会の確保

９　ＩＣＴ活用を含めた授業のメリハリ感

・　授業展開が速くなってしまうこと
・　受け身の状態による集中力の途切れ、眠気
・　ＩＣＴ活用を含めた複数の指導方法や教材教具の工夫
・　目先を変える工夫
・　動画への集中のための『消音』効果

１０　機器のトラブル

・　機器にはトラブルがつきものであることの認識
・　トラブルの発生時の共通確認、マニュアルの活用
・　Wi-Fi 環境で接続できないときの把握
・　（急に大きな音になってしまうことがあるので）音量調節に留意

＜授業力の向上を目指して＞

１１　研修の継続

・　ＩＣＴを使うことがメインになりがちなので、あくまでもＩＣＴは補助、わき役という意識を常にもつ
・　児童生徒の健康状態に合わせた授業のあり方を考え、どんな病気の児童生徒に対しても効果的にＩＣＴを使っていけるように絶え間ない研修を重ねる